

甲骨文の禍について

愛知県立大学外国語学部中国学科

畠山絵里香

1. はじめに

甲骨文を読み進めていると、当時生きた人間がどのように考えていたのか知ることができとても興味深い。一つ一つの甲骨文字に注目することで、物事の捉え方や考え方を感ずることができ私自身面白みを感じている。

甲骨文は禍に関する内容が多い。禍や吉凶に関する甲骨文字は一つ二つにとどまらない。また、それぞれ禍の文字の由来は異なるのだが、意味の上では同じ“禍”を表すことがある。ここでは「𧈧」と「𧈩」を『甲骨文簡明詞典：卜辞分類読本』と『殷墟甲骨刻辞類纂』を元に調査し考察する。

2. 甲骨文簡明詞典の「𧈧」と「𧈩」

「𧈧」¹は上部を足、下部を蛇で構成している。蛇は毒蛇の意味合いが強く、足を噛む様子から禍を表していると定義している。一方、「𧈩」²は文字の由来は不明だと書かれている。禍を表す文字として、よく使われることから仮借(借音)だと定義している。

甲骨文簡明詞典によると、この二つの禍の文字自体の由来は同じではない。しかし同じ禍を表す甲骨文字として機能しているようだ。

3. 殷墟甲骨刻辞類纂から判る「𧈧」と「𧈩」

「𧈧」と「𧈩」が同じ禍の意味を表したとしても、その使い方や用法に本当に違いはないのだろうか。殷墟甲骨刻辞類纂に記載されている甲骨文字を基に表にまとめた。

祭祀に関する禍		
	𧈧	𧈩
稔	3	0
降	0	8

左の表から、「𧈧」が農作物に関する禍に多く使われる傾向があると分かる。「𧈧」の下部を構成する蛇の部分が農作物と深い関係があったからかもしれない。

農作物に対しての禍		
	𧈧	𧈩
農作物	12	0

また、祭祀の一種である「降」の甲骨文字「𧈩」の右部分「𧈩」は、「𧈧」の上部と同じ「𧈩」が含まれている。それにもかかわらず「降」に起きる禍は「𧈩」が使われていることは興味深い。

¹ 从止(趾之本字)从它(象蛇形)，示蛇咬人足而有患害，当为会意字。卜辞用来表示一般的灾害，祸患，也是常见的吉凶用语。

² 构形不明，本义不详。从汉简知道和由同音。甲骨文用来表示灾祸咎戾之义，是常见的吉凶用语，似为借音字。

右の表では、自然神に関する禍は主に「𠄎」が使われている。これも「𠄎」の下部を構成する蛇が農作物と関りが強いのではという視点から、広い意味で自然とも繋がりがあることにより「𠄎」の禍として甲骨に刻まれた可能性がある。

自然神が元凶の禍		
	𠄎	𠄎
河	6	0
𠄎	4	0
岳	13	0
合計	23	0

一方で、右下の表中に分類された動物によって禍が起きるかどうかが占う甲骨文には「𠄎」が使われている。実在する動物によって起きる禍は「𠄎」が使われていたのではないだろうか。

動物の存在によって起きる禍		
	𠄎	𠄎
雀	0	5
虎	0	2
象	0	2
ワニ	0	9
合計	0	18

夢に関する禍		
	𠄎	𠄎
夢	1	19

次に夢に関する禍、王が天に問いかけたことに対する禍に関しては「𠄎」が多く使われている。しかし、「𠄎」もそれぞれ一つ使われていることから、これが単なる些細な間違いなのか、意図的に「𠄎」を使ったのかは不明である。

天に問うことに関する禍		
	𠄎	𠄎
王が天に聴く	1	6

病に関しては「𠄎」が多く使われている。「𠄎」の下部を構成する毒蛇が病という禍として使われていたのではないだろうか。

病に関する禍		
	𠄎	𠄎
疾	7	3
疾身	1	0
疾趾	3	0
疾舌	1	0
疾齒	3	0
疾言	1	0
合計	16	3

しかし、「𠄎」は疾という禍に対して使われることがある。病に関しては、必ずしも「𠄎」が使われるとは言えないと分かる。

特定の月に起きる禍		
	𠄎	𠄎
1月	0	3
2月	1	3
3月	2	5
4月	3	2
5月	1	6
6月	0	2
7月	2	0
8月	1	2
9月	1	1
10月	2	3
11月	1	4
12月	1	3
13月	0	1
合計	15	35

甲骨文に十干十二支があると、いつトされたのか判明する。甲骨文によっては何月に占ったのか具体的に記されている場合もある。月が含まれる甲骨文には「𠄎」と「𠄎」どちらの禍も登場する。

「𠄎」が含まれる全体の甲骨文に占める特定の月が記されている割合は7%*であった。同じように、「𠄎」が含まれる甲骨文における特定の月が記されている割合も7%*である。

よって、禍が何月に起こるのかという甲骨文に関しては「𠄎」と「𠄎」が偏って使われることはないことが分かった。

しかし、今月とトされた甲骨文に関する禍には「𠄎」が使われていた。「𠄎」の禍が一つもないという点が興味深い。

今月に起きる禍		
	𠄎	𠄎
今月	0	12

4. 終わりに

『殷墟甲骨刻辭類纂』を通して、禍を表す「𠄎」と「𠄎」は同じ用法で使われる時もあるれば、意図的にどちらか一方の禍を使うことがあると判明した。「𠄎」は毒蛇の特性が色濃く表れる場合があるため、農作物や自然との関わり、病の禍に対して使われているのではという可能性が深まった。その一方で「𠄎」は何か繋がりを感じられるような規則を見つけることができなかつた。いずれにせよ、トす時にはどんな禍なのか考慮して刻んでいたであろう。

〈参考文献〉

姚孝遂(1989)『殷墟甲骨刻辭類纂』中華書局

趙誠編著(1988)『甲骨文簡明詞典：卜辭分類讀本』中華書局

* 「𠄎」が含まれる 212 文の甲骨文のうち 15 文で特定の月が記されていた。そのため $15 \div 212 \times 100 = 7.075\%$ という計算方法から 7% となった。同様に、「𠄎」が含まれる 473 文のうち 35 文で特定の月が記されていたため、 $35 \div 473 \times 100 = 7.399\%$ という計算方法から 7% になった。